

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
14 明和町	対談項目1 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	齋宮跡復元建物の維持管理に対する県の補助	維持管理については、どのくらい費用がかかるのかという事業費の精査なども含め、一緒に知恵を出しながらやっていかなければと思っていますが、一定の整備と維持管理の役割分担をしている中ですので、それを曲げてといった大義があるのかということもあると思います。一方で維持管理を直接が無理であれば事業のほうでとおっしゃっていただいた部分については、これまで体験事業の委託もさせていただき、人材育成、情報発信というような、そういう部分での負担が軽減されるような事業面での支援というのはこれからも引き続きやっていきたいと思っていますので、トータルで心理的、財政的負担がなるべく軽減されていくような方法を一緒に知恵を出して考えていきたいと思っています。いずれにしても利活用なくしては今回の復元建物の意味がありませんので、連携して利活用を積極的に進めていきたいと思うところです。
明和町	対談項目1 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	復元建物の活用に関しての支援	
明和町	対談項目1 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	日本遺産:サミット配偶者プログラムの検討	配偶者プログラムについて、最終的には官邸や外務省が決めていくにしても、積極的に我々から提案をしていきたいと思っています。物理的な移動は制約がありますが、テーマ性、ストーリー性の中で、齋宮は、復元建物、十二単、お茶、いつきの舞、群行も非常に魅力的なコンテンツだと思いますので、全体のテーマ性、ストーリー性や物理的な移動なども考えながら、よく検討して積極的な提案をしていきたいと思っています。十二単をやるのであれば、単純に十二単とならないようアイデアを考えないといけないと思っています。それからお茶については、何らかの形で絶対に活用したいので、積極的に考えていきたいと思っています。

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
明和町	対談項目1 齋宮跡復元建物の維持管理と活用及び日本遺産を契機にした広域観光について	日本遺産:情報発信の支援	<p>齋宮跡の復元建物の維持管理と活用、それから日本遺産を契機にした広域観光ということの中で、特に齋宮の復元建物の活用という面で、いろいろとご支援をいただきたいと思います。</p> <p>本年の4月24日に、「祈る皇女齋王のみやこ齋宮」が、日本遺産に認定され、齋宮に関わる文化財、史跡等をパッケージとして情報発信していくこととなり、文化庁の日本遺産魅力発信推進事業という支援を受けて行います。今回は地元の人たちの力を借り、齋宮歴史博物館、私どもの財団、地元の齋王まつり実行委員会など、齋宮に関わる団体と連携して、多くの情報発信をしていこうということで、県に協力いただきたいのは、齋宮歴史博物館も入ってはいいただいているのですが、県の観光セクションも協力いただけないかと思います。日本遺産魅力発信事業で、プロモーションビデオ等の作成、案内板や説明板、多言語対応のアプリなど、今委託をしながら進めている状況です。我々の情報発信力はあまりありませんので、いろいろな機会を通じて、PRをお願いします。</p> <p>観光面では、平成29年に歴まちのサミット等の開催を予定していますので、広域的というか三重県以外でのPRをお願いしたいと思います。</p>	<p>日本遺産の認定を契機にした情報発信ということで、この日本遺産を活用したPR、しっかりしていきたいと思います。観光セクションでのPRもちろんですし、インバウンド、外国人の方々に来ていただくときの広域での県を越えた連携、例えば中部地域で言うと昇龍道とかがありますが、そういうものの議論が盛んに行われています。海外に行けば、県を越えている回るでしょうから、そういう意味で日本遺産に他に認定されている隣県や近県も含めて、周遊ルートを作っていくとか、積極的なPRに努めていきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
明和町	対談項目2 漁業振興策について県の考えと支援策は	<p>水産業の活性化</p> <p>町内には、下御糸と大淀の2つの漁業施設があり、大淀漁港については県管理で海岸堤防整備事業を進めていただいております。来年完成します。それに対して漁業者の数が、非常に減ってきているというのが現状です。海苔の最盛期には、大淀と下御糸の漁業従事者の数が350人くらいあったと思うのですが、今は10数人に激減している状況です。その原因としては、燃料の高騰が非常に響いています。新規の漁業従事者、後継者確保について努力しているところですが、なかなか後を継いでくれないという状況です。そういう中で、答志で黒海苔養殖の委託加工施設を協業で行っており、労働力の負担軽減にもなるという話を聞かせていただきました。しかし、そのことを地元の漁業の方々に話し、何とか協業化が図れないのかという話もさせてもらったのですが、なかなか乗ってはきてくれないです。我々としてもいろいろとこれから努力をしてまいりたいと思うのですが、県も支援をいただきたいと思っています。</p> <p>6次産業化の話の中で、バラ海苔といっているのですが、海苔を摘んで来て、今までですと板海苔に加工していくわけですが、そのまま乾燥をして製品化していくというところで、手間が省けるというか、作業が簡単な部分もあり、町としても漁業者の皆さんにこういう新たな取組の提案もさせていただいているところです。県もこういった漁業振興の部分に、指導員のサポートをお願いしたいと思います。農業は、国のほうでも一生懸命力を入れてやっていただいているのですが、漁業のほうがちよっとという思いもしていますので、支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>知事の発言内容</p> <p>水産業をめぐる状況の激変、資源管理の問題、燃料高騰の問題、担い手の問題というような中で、平成23年度にその水産業や、漁業振興のガイドラインとして、三重県水産業漁村振興指針を作りましたが、環境もより変化してきているということもありますので、その見直しを今年度進めて、どういう方向で漁業、水産業を進めていくのか検討させていただいております。また、今県の総合計画の見直しもやっています。水産業は、新規の就業者、あるいは一人当たりの漁業における生産額というようなものを高めていくための目標を設定していると思っています。漁業者の所得が向上し、生活が安定し、そして担い手が確保されるという循環をきっちり作っていくためには、ちゃんと目標に掲げて正面からやっていかなければいけないだろうという思いで今議論をさせていただいています。明和町は津農林水産事務所の管内になりますので、その普及員も一緒に入って、最終的な答えは答志のようなのではないかもしれませんが、最初から一緒にやっていくということが大事かなと思っています。明和町の花巻養殖やアサリの漁業が、持ち直していけるように普及員もしっかりサポートさせていただき、漁協の皆さんなども連携して取り組んでいきたいと思っていますので、よろしく願います。それからアサリは、愛知県が稚貝の移殖に成功していますので、三重県でも3年前から、稚貝移殖で資源を回復させるという取組を勉強していますので、そういう形で資源の回復に努めていってということも考えています。</p> <p>6次産業化についても、明和町の花巻養殖の生産額は平成26年度は近年の中では比較的良かったようですが、これを一時的にしないように、“みえのあかり”という付加価値の高い海苔を出させていただいたりもしていますので、6次産業化とともに海苔自体の付加価値を高めていくような部分においてもしっかりとやっていきたいと思っています。海苔なども含めて、養殖の部分もしっかり盛り上がってこない、新規の就業者を獲得できないというような思いもありますので、指針の見直し作業の中で、今後の方向性をしっかりと検討していきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
明和町	対談項目2 漁業振興策について県の考えと支援策は	水温上昇の影響に係る調査研究	<p>昨年は海苔養殖もよかったですのですが、その前の年などはガタ落ちで、漁に出ていけば赤字になるということでやめたというような話もありました。その原因は、海水の温度が高く、海苔が育ってきた途中でプツンプツンと切れて、製品になってこないというような状況もあったということです。以前、水産試験場で海水面の温度が多少高くても育つ新しい海苔の品種の研究をしてみえるというような話も聞いたのですが、そういう研究等もお願いしたいと思います。</p>	<p>伊勢湾の水質調査などをやらせていただくと、水温の上昇傾向はみられるというということですので、引き続き水質調査をやりたいと思いますが、“みえのあかり”というのが高水温に強い品種で、年内に出荷すると価格が高いことから、秋に水温が高くなると養殖を開始するのが遅れるので、このような高水温に強い海苔の調査研究も進めていきたいと思っています。</p>
明和町	対談項目3 三重国体施設整備の支援		<p>2021年のとこわか国体の成年男子ソフトボール会場として明和町を決めていただき、今体育協会を中心に準備に取り組んでいるところです。日本ソフトボール協会の基準では、基本的に同一会場で2面の試合場が必要とのこと。それを受けて、単にソフトボールの試合を明和町で消化したということだけではなく、何とか将来に残したいという思いもあり、施設整備を検討しているところですが、県としては、既存の施設を使ってやってくださいという当初の話もあり、それぞれの競技団体がどうしても直さなければならないといった部分について、何らかの支援をいただけるという話も聞かせていただきました。</p> <p>そういう中で、総合グラウンド1面はきちんとありますが、用地を確保して、整備も考えていこうという新たな取り組みについて、県もご支援いただきたいと思っています。</p> <p>総合グラウンドについては、グラウンド1面に加えて、地域づくりの観点で多目的広場、多目的運動場を、国体に合わせては仮設で対応しながら、1面はしっかりしたグラウンドの整備をしていきたいと考えているところです。広域の中でどう位置づけができるか、またこれは担当事務局のほうと話をさせていただき、何とかご支援いただけたらありがたいと思っています。</p>	<p>施設の整備については、国体の開催のための施設整備と、それ以外に様々な地域づくりをにらんでのスポーツの施設整備という面があり、国体の開催のための施設整備については、中央競技団体から指摘があった部分について、市町への支援をするという制度があります。中央競技団体と協議しながら議論していくということだと思いますので、指摘が出たら、県の制度を活用していただけるかどうかというのを協議させていただければと思います。</p> <p>地域づくりなどを含めた新たなスポーツ施設の整備については、これは補助制度を設けたところですが、三重県は屋内体育館が非常に少ない県ということで、まずは体育館の整備ということで、地域づくりのスポーツ施設という補助制度を設けました。これは、単独市町だけではなく、広域に効果が波及する施設であるかどうかというのが、要件になっていますので、構想の具体化に合わせて、新たな整備が、そういうものであるかというのを担当の部局とよく協議させていただきたいと思っています。</p>